

総合学科におけるガイダンス機能の充実に関する研究 — 科目選択に個別ガイダンスとガイダンスブックを取り入れて —

学籍番号 169961

氏名 北野 賢一

主指導教員 福永 光伸

1. 研究の目的と枠組み

1.1 はじめに

実習校は平成29年度普通科総合選択制から総合学科へと改編され、教育課程が大きく変わり選択科目の数や種類が非常に多くなった。総合学科の教育の特色の一つに、「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること」が挙げられており、1年次から将来の進路への自覚を持たせ、主体的に自己決定させる指導をしていく必要がある。そのためには、生徒が将来の進路に裏付けされた科目選択を行えるようなガイダンス機能の充実が必要である。

1.2 研究の目的と枠組み

本研究における仮説は次の通りである。

- ① 総合学科として充実した科目選択ガイダンスを行い、生徒が主体的に考え、納得のいく科目選択を行うことで進路意識が高まるのではないかと。
- ② その結果、学習意欲も向上するのではないかと。

以上の仮説に基づく、本研究の目的は次の2点である。

- (1) 総合学科の科目選択ガイダンスに関する先行事例研究を基に、実習校のガイダンス機能の基盤を構築する。
- (2) ガイダンス機能の4つの柱である「情報提供」「相談体制」「計画」「体験活動」の中で、実習校の弱みであった「情報提供」と「相談体制」に焦点を当て、ガイダンス機能を充実させる。

以上の目的により、期待される効果として、生徒の進路意識や学習意欲の向上が期待できると考えた。以下に研究の枠組みを図1に示す。

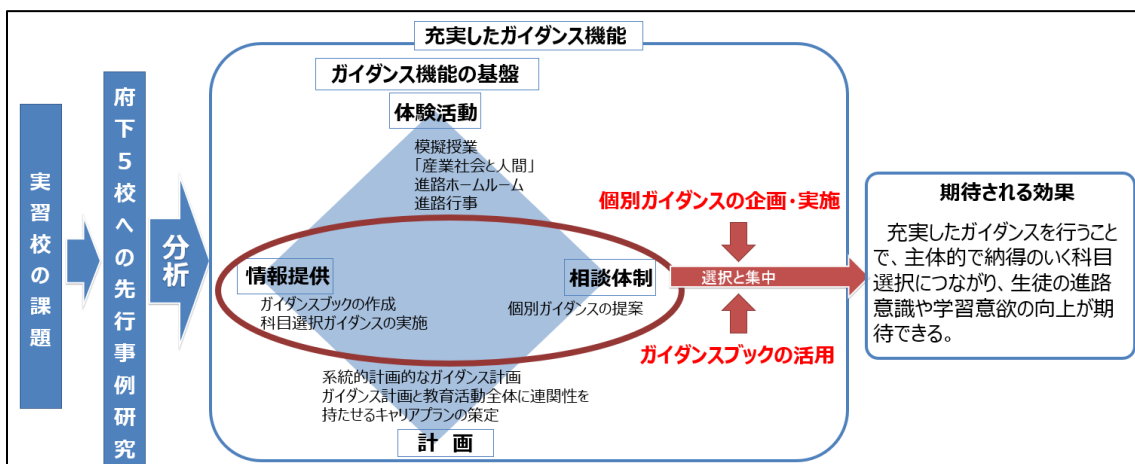


図1 研究の枠組み

2. 研究方法

2.1 ガイダンス機能の基盤づくりに向けて

平成29年度に総合学科1期生が入学してくる。ガイダンス委員会では平成28年度から総合学科のガイダンス機能の基盤づくりの検討を行った。ガイダンス機能の4つの柱（「情報提供」「相談体制」「計画」「体験活動」）を充実させるために大阪府内の総合学科高校5校への先行事例の情報収集を行った。得られた知見を校内で共有し、キャリアプラン（「計画」）やガイダンスブック「道標～みちしるべ～」（「情報提供」）をガイダンス委員らと協働して作成した。これまで実習校では存在しなかった「相談体制」について、個別ガイダンスの導入を企画した。

2.2 充実したガイダンス機能をめざして

総合学科1期生のガイダンス計画と教育活動全体に関連性を持たせた年間計画であるキャリアプラン、科目選択の情報提供ツールとしてのガイダンスブック「道標～みちしるべ～」、個々の生徒に対する相談体制の充実を図る科目選択相談会（個別ガイダンス）など、これらの取組みを行うことでガイダンス機能の基盤を整えることができた。特に、全体に対するアプローチであるガイダンスブック「道標～みちしるべ～」の活用と個々の生徒に対するアプローチである個別ガイダンスに焦点を置くこととした。

3. 総合考察

本研究では実習校の弱みであった「情報提供」と「相談体制」に焦点を当て、ガイダンス機能を充実させることで、進路意識の向上とその結果、学習意欲も向上する可能性を見出すことができた。その要因としてガイダンス機能を充実させるとともに、報告者のコーディネーターとしての役割が挙げられる。コーディネーターとしての役割を果たすことにより、教員の協働性や参画意識を向上させ、一部の教員が生徒を指導するのではなく、学年団が一丸となって生徒を指導することで、ガイダンス機能を充実することができた。

進路意識の向上に関しては、生徒向け質問紙調査（図2）や学校教育自己診断の結果から平成28年度に比べて自分自身の進路を考えて科目選択を行っている生徒が増加している。さらに、「情報提供」に関する項目も評価が向上しており、ガイダンスブック「道標～みちしるべ～」の活用によりガイダンス機能が充実していることが推察される。

学習意欲の向上に関しては、個別ガイダンスを行った結果、「今の成績をキープまたは上位を狙おうと思った」や「英検、漢検など受ける気はなかったけど受けようと思いました。今の順位に満足せずもっとがんばろうと思いました。」と回答した生徒がいた。このように、一部の生徒ではあるが学習意欲を向上させることができた。

総合学科におけるガイダンス機能を充実させることで、生徒が将来への見通しをもって主体的に進路選択・科目選択を行い、学びの意識を高めることへの道筋ができたと考えている。

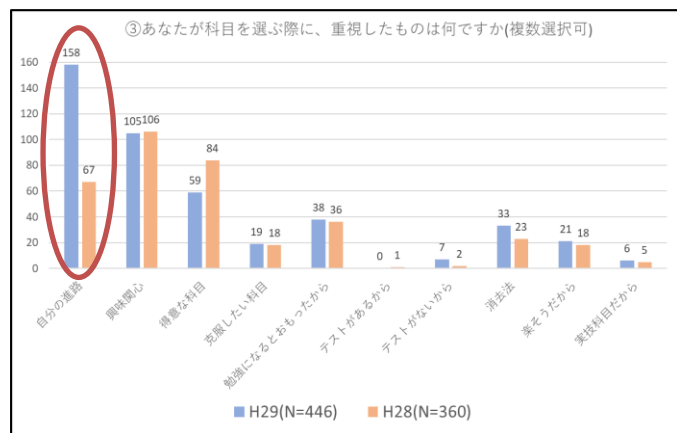


図2 科目選択する上で重視した項目に関する比較